井草中ＣＳ（コミュニティ・スクール）便り 第７号

２０１０年１０月１８日発行　ＣＳ広報部会

記録的な猛暑となった夏も終え、さわやかな季節を迎えました。学校内では合唱コンクール人向け、生徒たちの伸びやかな歌声が響き渡っています。

今回のＣＳ便りでは、井草中学校がコミュニティ･スクール（地域運営学校）になった経緯と、ＣＳ・学級サポーター（通称「コミ担」）の今年度の活動の様子を紹介します。

かつて、井草中学校は廃校の危機!!を乗り越えてきた

下のグラフを見てください。これは平成 11 年度から 12 年間の井草中学校新入生数の推移です。

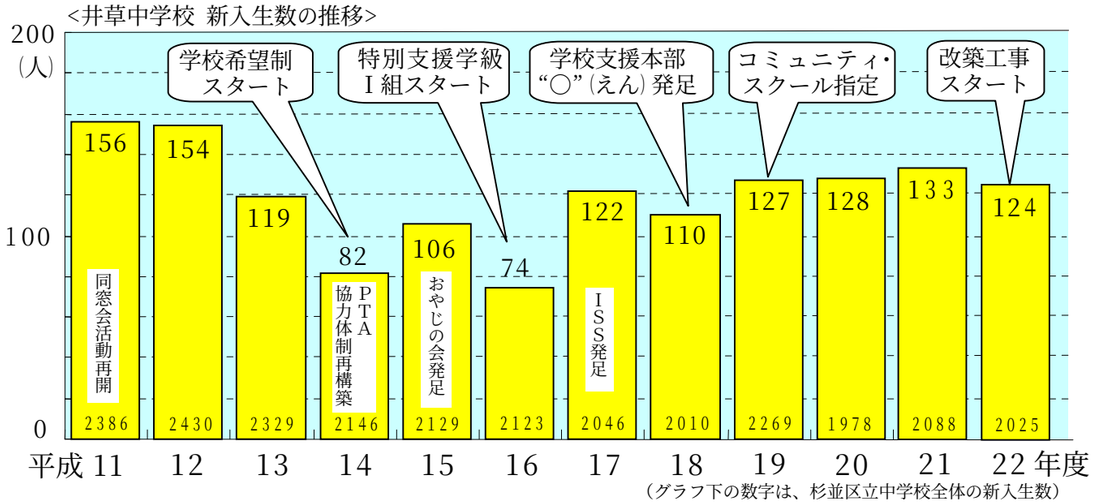
平成 14 年度に 82 人、16 年度には７４人と激減しています。その理由として、14 年度に学校希望制が導入されたことが考えられます。また、減少した理由の一つに、学区域の広さや校舎の老朽化もありました。それに加えて“荒れている”という風評がありました。（当時、保護者の立場で見ていた現ＣＳ委員の眼からは、当時の井草中は実際には決して荒れていませんでした。）

「風評に負けて廃校になってしまうのではないか」…そんな危機感を共有し人たちは、井草中に関わる 3 つの団体で活動を始めました。50 周年記念式典を機に 11 年度から活動を再開した同窓会、14 年度に学校との協力体制を再構築したＰＴＡ、15 年度に立ち上がったおやじの会です。

そんな状況のなか、16 年度には現在の寺田節子校長が着任し、改革準備が整います。学校関係者は、寺田校長とともに井草中学校を「入りたくなる学校」に変えようと、先の 3 団体とも協力して井草中の関係団体を立ち上げていきます。17 年度のＩＳＳ（井草サバイバルスピリット）発足を皮切りに、18 年度には井草中を支援する８つの団体（現在は 13 団体）の連絡会・学校支援本部“〇”（えん）を発足させ、そして翌 19 年度、杉並区よりコミュニティ･スクール（ＣＳ；地域運営学校）に指定されます＊。ＣＳ委員１１名は、“〇”の役員を含む地域の人 7 名、学識経験者 3 名と校長で構成されています。

このようにしてコミュニティ･スクールとしてのスタートをきった井草中は、先生方や保護者のがんばりと、地域の多くの方々の支援があり、最近は新入生数も 130 人前後に安定し、改築を迎えた今年度も入学者はそれほど減りませんでした。かつての悪い風評は払拭され、今では逆に井草中は「入りたくなる学校」の１つになっています。生徒たちの生き生きとした姿が、それを証明しています。（4 頁に続く）

＊杉並区の中学校では、他に、杉森中、向陽中、和田中、荻窪中、天沼中が、また、近隣の小学校では桃井第四小と三谷小がＣＳに指定されています。



（グラフ下の数字は、杉並区立中学校全体の新入生数）

学級サポーター

CS･コミ担 活動報告

活動のうち、おもなものを紹介します。

５月２９日（土）第６２回運動会 応援

四宮小をお借りしての運動会。とても寒い一日でしたが、コミ担はそれぞれのクラスカラーに身を包み、生徒席でいっしょに応援しました。

６月１２日（土）社会人講座Ⅰ「コミュニケーション学習」（２年生）

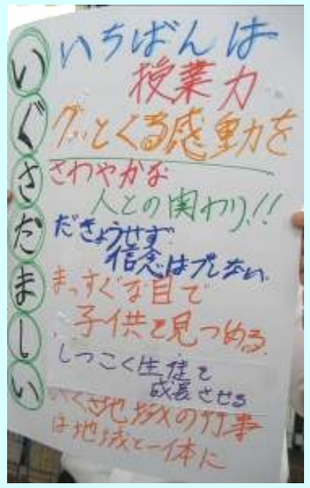
２年生の職場体験事前学習で、ゲストティーチャーとして 1 クラス 6～7 名、計 26 名が授業に参加。“職業”や“働くこと”について話した後、1 班に 1 人ずつ入り、言葉のキャッチボールを交わしながら働くことの心構えについていっしょに考えました。

６月２５日（金）社会人講座Ⅱ「マナー講習」（２年生）

２年生全体を８グループに分け、東京城西ロータリークラブから８名のゲストティーチャーに講義をしていただきました。社会に出てもはずかしくないマナーを身につける大きな一歩となりました。

８月２７日（金）地域交流研修会・交流昼食会

恒例となりました夏休み中の研修会。先生方・ＣＳ委員・支援本部・ＰＴＡの総勢５０名が６チームに分かれ、「井草中学校における良い教員の必要絶対条件とは何か」というテーマでまとめて発表しあいました。右は最も好評だったプレゼンテーションです。



９月１１日（土）地域交流道徳（１年生）

１８名のゲストティーチャーが３クラスに分かれ、１時間はそれぞれ井草中のとの関わりを含む自己紹介と、この便りでも紹介した学校と地域のつながりについて説明しました。もう１時間は班に分かれ、「仕事人の１日」について調べた生徒の発表を聞いて、質問など言葉のキャッチボールを交わしました。

＜ＣＳ会議日程＞

◆これまでの会議

第1回　4月16日（金）
第2回　5月19日（水）
第3回　6月11日（金）
第4回　7月16日（金）
第5回　9月22日（水）

※議事録は井草中学校公式ＨＰに順次アップされていますのでご覧ください。

◆今後の予定

第6回　10月20日（水）18：30～
第7回　11月17日（水）15：30～
第8回　12月22日（水）18：30～

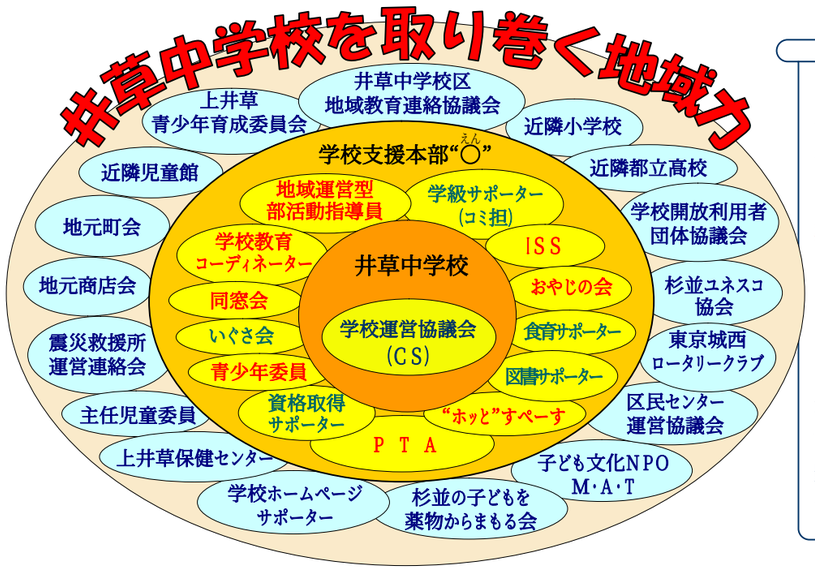
どなたでも傍聴できますが、議題によってできない場合もありますので、傍聴を希望される方はあらかじめ学校までご連絡ください。

注目される井草中の教育～井草方式

（１頁より続く）そもそも「コミュニティ･スクール」とは、地域住民や保護者などが学校運営に参画することで、地域に開かれた信頼される学校づくり、特色ある学校づくりを推進する仕組みです。井草中の特色は、“双方向性”をキーワードに、地域の人との豊かな関わりの中で子どもたちを育む教育です。この独自の教育を私たちは「井草方式」と呼んでいますが、これから学校支援本部やＣＳを立ち上げようという方々から注目されています。また、札幌で開催された文部科学省のＣＳフォーラムで発表したり、世田谷区の中学校に招かれたり、文京区教育委員会が視察に訪れるなど、様々な機会に情報発信しています。

昨年度からは、もっと積極的に“双方向性”の機会を作ろうと、支援本部やＣＳの委員などで「学級サポーター（通称：コミ担）」を組織し、日頃の学校生活から生徒達と関わるようにしています。子どもたちが違和感なく受け入れてくれているのも、今までの活動の積み重ねがあってこそだと思います。

以上のような経緯で現在の井草中の教育があります。このことをぜひ多くの方に知っていただき、子どもたちを見守り成長させる立場で、共に井草中の教育にご支援いただければ幸いです。



この図の中ほどで輪をなす黄色が直接井草中を支援する団体で、学校支援本部“○”に属します。その中の赤文字は“○”設立時からある８団体で、その後４年間で13団体にまで増えました。

今年度新しく入った「いぐさ会」は、元ＰＴＡ会長・副会長、校長・副校長による会で、皆さん現役を退いた後も影に日向に井草中をご支援いただいています。

リレーエッセイ　　井草中探訪　第７回　　植松照美

こんにちは。学校教育コーディネーターの植松です。同じくコーディネーターの松谷早苗さんとは平成１９年度にＰＴＡ副会長を一緒に務めたのが縁で、現在二人ペアで活動しています。また、支援本部のISS江畑洋子さんや“ホッと”すペーす小口和子さんもコーディネーターとして地域との連携を図って活動を支えています。

学校教育コーディネーターって？　これをお読みの方の中に突撃電話やメールで依頼を受けた方がいらっしゃるのではないでしょうか！！　学校教育方針に基づいて先生方がお考えになる理想の授業を展開・開催するためにＣＳ・学校支援本部が中核となり、地域の方、ＰＴＡ保護者の方を講師としてお招きし、生徒との交流・体験学習のお手伝いをしていただいております。

その方々と学校側の間に立ち、連絡・調整をするのが私たちの仕事です。皆さんどの方も快くお引き受けしてくださり、いつも感謝しております。

昨年はのべ１６００名の方がいろいろな形で生徒と交流をしてくださいました。その体験を通してどの生徒にも等しく、これから成長していくための様々な知恵、勇気、自信の種を心に宿すことができたのではないかと思います。

今年度は高際尚子先生が地域連携担当ということで、手と手を取り合って！？活動してまいります。地域の方々、ＰＴＡ保護者の方々、今後ともご協力よろしくお願いいたします。